

相生山のヒメボタル（姫蛍）



写真家 加藤文雄氏
2014.5 撮影

ご本人より提供
無断転載禁止

名古屋市 redlist2015 準絶滅危惧種 (NT)

目	科	種	学名
コウチュウ (甲虫)	ホタル (蛍)	ヒメボタル (姫蛍)	<i>Luciola parvula</i> (Kiesenwetter)

未だ分かってないことも多いのですが・・・

- ◆その一生 **成虫**・・・♀≒7mm（後ろ羽根退化して飛べない） ♂≒9mm
 「(相生山では)ミカンの花匂うころ発生し、栗の花が匂いだすと消滅する」
 1週間～10日間、発光により生殖相手を求める。交尾、産卵後死滅。
 その寿命は雨や気温など天候の影響が大きい。人間からの圧力も。
卵・・・ $\phi=0.6\text{mm}$ 孵化するまで1ヵ月程度
幼虫・・・孵化直後は2.5mm程度 陸貝などを餌にし、順調に成長できれば
 翌年3月ごろに**サナギ**へ・・・「成長不良な個体は更に1年、幼虫で過ごす」
- ◆その餌 **成虫**・・・水しか摂らない。
幼虫・・・肉食。陸貝の中に入りこみ、その身を食べている。
 「幼虫の餌は陸貝だけではないのだろう。陸貝の数に比べて、ヒメボタルの個体数は多すぎる」（川瀬先生/愛知みずほ大）「調査中ですが、ヒメボタルの生息域と陸貝の分布域は必ずしも一致していない」（日野先生/名城大）
- ◆なぜ相生山に？ 地質・・・堆積層（砂・礫・腐葉土など）の下に不透層（粘土質）があって、幼虫の食餌となる陸貝などの生物が生育できる環境条件が整っている。
- ◆夜中が飛翔のピーク：人間が夜を明るくしてしまったので、発光効率を求めしだいに遅く。
 「曇りの日に飛ぶ数が少ないのは、雲が都会の光を反射して森のなかも明るくなるから」

ヒメボタルは 相生山緑地の『象徴種 = flagship species』
 その魅力によって、世間に特定の生育場所の保存をアピールすることができる種。